

公約・市民要望対応を重視

百瀬市政初の当初予算案

【解説】百瀬敬市長が昨年10月に就任してから初めて編成した新年度一般会計当初予算案は、過去2番目に大きな規模となった。国の補正予算を受け、本年度一般会計補正予算に前倒した分を含む「13カ月予算」でみると、過去最大だった本年度当初と同規模の約312億円となる。

新年度で完了する市第5次総合計画「基本戦略A（子育て世代に選ばれ地域の創造）」に当たる施策には、前年度より4億5000万円多い59億5000万円を配分した。百瀬市長も重視する子育て関連施策に手厚く配分したのが特徴だ。昨

年10月11月に全10地区を回ったタウンミーティングで要望が多かった生活道路の補修などの経費も増額した。

一方、物価高騰への対応や市長公約を反映するため、市の貯金に当たる財政調整基金の取り崩しを、本年度当初の6億円から8億円に増やした。

財政調整基金残高は5年度末に33億6000万円を見込む。市が健全財政の指標とする「30億円」は確保するが、感染症や大規模災害など不測の事態への支出に備える必要がある。今後、中学校の大規模改修や道路補修など社会生活基盤の維持にも費用がかさみ、

20億円かかるともされる新平出博物館の建設も課題となる。

旧榑川村との合併に伴う合併特例債の発行期限は7年度に迫った。発行限度額103億6530万円の4・5%に当たる4億7440万円を借り入れ可能だ。市財政課は「新年度に検討し、次期総合計画の中で有効活用したい」とする。

百瀬市長は「新しい塩尻」を目指すとする。新年度予算案には、子育て支援をより手厚くし、市民要望に真摯に耳を傾ける姿勢が反映された。ただ、長期的な対応が迫られる市政課題も多い。市長には、創意工夫に富んだ手堅い行政経営が求められる。

(瀬川智子)

令和5年度 塩尻市一般会計当初予算案

※金額は1万円未満切り捨て、構成比は小数点第2位四捨五入

